市浦村埋蔵文化財調査報告書 第13集

十三湊遺跡

～1999・2000年度　第90・120次調査概報ほか～

（1998年度　第86・87次調査。旧市浦村立十三小学校グランド内の調査。）

2001年３月

青森県市浦村教育委員会

序　文

市浦村では現在，「安藤文化のふるさと」をキャッチフレーズに歴史風土・文化を活かした観光の村づくりを目指しています。また，文化財行政の重要な施策として平成3年度から始まった中世港湾都市・十三湊遺跡の学術調査を継続し，史跡指定を目指した取り組みを行っています。

さて，本報告は市浦村教育委員会が平成11・12年度に実施した十三湊遺跡の発掘調査概報であります。本書が埋蔵文化財の保護と活用に役立つだけでなく，地域の歴史の教材として利用していただければ，幸いと存じます。

また，調査に際しまして，御指導・御助言を頂きました諸先生には心から感謝申し上げる次第です。

平成13年3月　　市浦村教育委員会
教育長　木村義光

例　言

1　本書は青森県北津軽郡市浦村大字十三地内に所在する十三湊遺跡の平成11・12年度の調査概報である。

2　調査は文化庁記念物課・青森県教育委員会文化課・市浦村遺跡整備検討委員会の指導協力を得て，市浦村教育委員会が実施した。

3　本書の執筆・編集は榊原滋高（市浦村教育委員会学芸員）が行い，遺物の復原・実測図の整理・製図，写真撮影は長利豪美（調査補助員）を中心に佐藤美矢子・丁子谷瑞穂・一戸勝子・伊藤美枝子・葛西節子・成田ヨシエ（地元作業員）で行った。

4　第54・78次調査出土の古瀬戸製品については，藤澤良祐氏（財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター）に器種及び時期別の分類をお願いして，御教示頂いた。

5　珠洲は吉岡編年，古瀬戸は藤澤編年を引用している。青磁・白磁の分類は国立歴史民俗博物館1994「日本出土の貿易陶磁」と大宰府分類（森田・横田1978）を参考にして記述した。

6　本書を作成するにあたり，市浦村遺跡整備検討委員会の諸先生以外にも，以下の方々から御指導・御助言を賜った。記して感謝申し上げる次第です（敬称略）。

石井　進，坂井秀弥，藤澤良祐，小嶋芳孝，藤沼邦彦，関根達人，工藤清泰，佐々木浩一，山口義伸，鈴木和子，工藤忍，佐野忠史，中田青矢，斉藤淳，斉藤とも子，対馬桂子，常田紀子，坂本洋一，木村真明，木村高，清野彰史，杉野森淳子

5　なお，記述等に誤りがあれば，すべて編者の責任である。

調査組織

市浦村遺跡整備検討委員会（職名は委嘱当時）

委員長　村越　潔・青森大学教授（考古学）

委　員　佐藤　仁・青森県文化財審議委員会委員（歴史学）
市浦村文化財審議委員会委員長
高島成侑・八戸工業大学教授（建築史学）
前川　要・富山大学教授（考古学）
三浦圭介・青森県教育庁文化課
三内丸山遺跡対策室長（考古学）
小島道裕・国立歴史民俗博物館助教授（歴史学）

事務局　市浦村教育委員会
木村義光・教育長
白川隆治・教育次長（安藤の里信振興室長兼務）

調査員　榊原滋高・安藤の里振興室学芸員

調査補助員　長利豪美・市浦村臨時職員

作業員（平成11年度分）佐藤美矢子・伊藤美枝子・一戸勝子・柏谷裕美子・成田ヨシエ・葛西節子・葛西テサ子・山田紀子・成田只則・岡本一成・武田恭氏（地元作業員）
塚田直哉（富山大学人文学部学生）

（平成12年度）佐藤美矢子・伊藤美枝子・一戸勝子・柏谷裕美子・丁子谷瑞穂・今　由里子・成田ヨシエ・葛西節子・葛西テサ子・山田紀子・山田サミ・三和　淑・工藤チエ・秋田谷　久・成田只則（地元作業員）
田中　学（富山大学大学院人文科学研究科学生）

目　次

序文・例言
第Ⅰ章　十三湊遺跡の概要…… 2
第Ⅱ章　調査の経緯と経過…… 2
第Ⅲ章　調査の成果…… 9
付章　十三湊遺跡の関連調査…… 48

第Ⅰ章　十三湊遺跡の概要

青森県北津軽郡市浦村に所在する十三湊遺跡は「廻船式目」の中で，「奥州津軽十三湊」として三津七湊に登場する北日本を代表する中世港湾として知られ，鎌倉～室町時代にはエミシの系譜を引く在地の豪族・安藤氏が支配していました。場所は本州の最北端で，日本海側に面した十三湖（じゅうさんこ）という潟湖（ラグーン）のほとりにある。ここには岩木山・白神山地を源とする岩木川の流れが肥沃な津軽平野を貫流して十三湖に辿り着くことから，津軽地域の河川交通の要衝として古くから発展する。また一方では，十三湊のある日本海側一帯は中世期には西浜と呼ばれ，外が浜（陸奥湾）と同様に郡郷制の枠組みから外れた北海道（蝦夷地）と接する境界領域として認識されており，北方の産物が集積する日本海交易の要衝として発展する。こうした河川交通の要衝と境界領域という結節点に商業都市・十三湊が発展した背景が考えられる。

十三湊遺跡は十三湖の西側で半島状に発達した南北に細長く伸びる砂洲上に立地している。そして，日本海に面した七里長浜との間には北から前潟（まえがた）・セバト沼（内湖），明神沼（みょうじんぬま）と呼ばれる小湖沼が連続する。この小湖沼は十三湊が繁栄した中世期には日本海と結ぶ水路として利用され，明神沼付近で開口した水戸口（みとぐち）（日本海への出口）から，日本海の荒波をさけて外洋船が入港したものと考えられる。

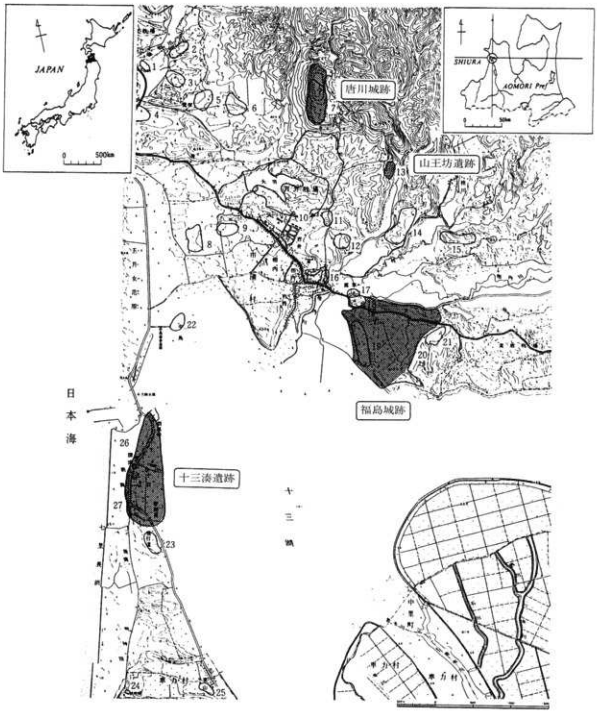
十三湊や安藤氏に関する調査研究は古くから行われているが，現在の学術目的とした継続調査に先鞭をつけたのは，平成３年～５年にかけて行われた国立歴史民俗博物館の調査がきっかけであった。そこでは江戸時代の絵図・明治時代の地籍図・航空写真・電気探査等の分析結果を基に発掘調査を行い，十三湊最盛期の想定復原図（15世紀前半）を提示するものであった。それは十三湊を港湾都市遺跡として捉える重要な調査であった。現在では，国立歴史民俗博物館の調査を基にして，地元市浦村と青森県教育委員会が協力しながら，実態解明に向けた学術調査を行っている。

第Ⅱ章　調査の経緯と経過

市浦村教育委員会では，平成６年度から十三湊遺跡の学術調査を開始している。これは前述したように国立歴史民俗博物館の調査を引き次ぎ，十三湊遺跡の中心施設の存在が推定された領主館の解明及び範囲確認を目的としたものである。場所は十三湊遺跡のほぼ中央に位置する旧市浦村立十三小学校の敷地とその周辺である。周辺には遺跡を大きく南北に分断する中世期の大土塁が現存している。以下，各年度ごとの調査概要を振り返っておきたい。

平成６年度には十三小学校のグランド内において２箇所の試掘調査を実施した。調査の結果，第Ⅰ地区（第７次調査）で東西方向に伸びる堀跡を確認した。この堀跡は北側に想定される館・屋敷を区画する南堀と推定することができた。そして，第Ⅱ地区（第８次調査）では東西方向に伸びる２対の柵囲い道路跡を確認することができた。このことから，堀と大土塁の間には屋敷割りされた居住空間が存在するものと推測することができた。

平成７年度には前年度の成果を受けて，校舎北側地点の発掘調査を実施した（第９次調査）。主な



第1図　十三湖周辺と十三湊遺跡

目的は館跡の主体部及び範囲確認を行うものであった。調査の結果，調査区が最盛期には館の主体部になる可能性が高いことが分かってきた。内部は柵塀や溝による区画遺構によって屋敷割りがなされ，掘立柱建物や竪穴遺構，井戸を配置する景観が復原できるようになった。また，遺物等でも青磁酒会壺や瀬戸仏花瓶など奢侈品が多く出土していることから，身分や階層性の高い人々の居住域であることを裏付けるものであった。

また，平成８・９年度（第18･76次調査）の調査地点は前年度の調査区に接した北側に設定し，２カ年にわたって調査を実施した。調査の結果，東西方向に伸びる大溝（堀）を検出した。これは館或いは屋敷の北側境界の区画遺構と考えられた。さらに，遺跡の終末･衰退期には火事場整理の跡と考えられる集石廃棄遺構がまとまって検出された。

平成10年度には市浦村･青森県教育委員会は富山大学人文学部考古学研究室の協力を得て，旧十三小学校グランド内の全面的な発掘調査を実施した。調査の目的は推定領主館跡と大土塁に挟まれた屋敷地の様相を明らかにすることであった。調査の結果，平成６年度の試掘調査の結果を裏付けただけでなく，より複雑な様相であることが明らかとなってきた。概要だけを述べると，遺構の重複が激しく複雑な様相を呈しているが，大きくⅢ段階の遺構変遷を捉えることができる。まずⅠ期では13世紀後半～14世紀前半代に相当する一辺が40m四方の方形区画（居館）が登場する。これは「推定領主館」の前身に当たる鎌倉時代の方形区画（居館）と考えられる。さらにⅡ期は大土塁と平行するように，東西に伸びる堀跡２条や柵囲い道路３条が検出されている。また，柵囲い道路に挟まれた空間は連続した屋敷割りが行われ，掘立柱建物に井戸を伴う居住空間として活発に利用されている。十三湊における都市計画的な遺構配置が見られる時期と言える。年代的には14世紀後半～15世紀前半に相当する。

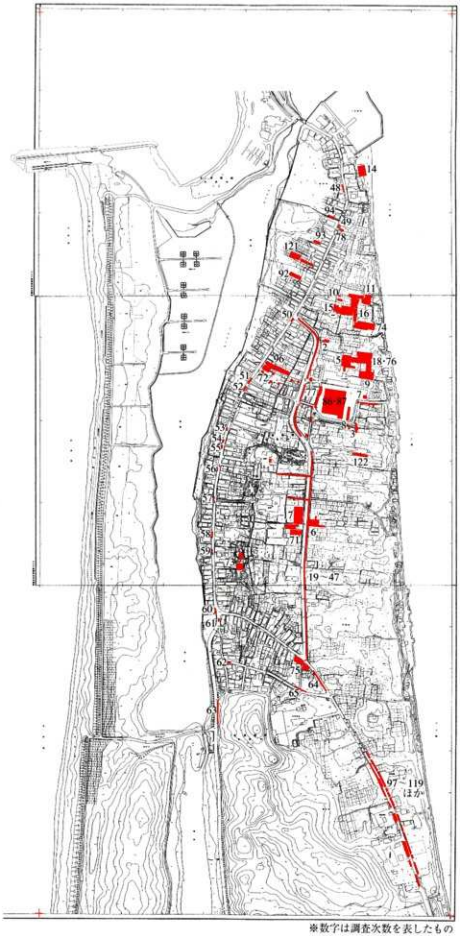
Ⅲ期にはこれらの都市計画的な遺構が消滅した後に新たな遺構配置が認められる。具体的な様相は今だ判然としないが，堀が廃棄された後に形成される集石遺構や竪穴遺構がある。また，調査区の南西部では一定の墓域が形成されるようになる。年代は15世紀中頃を前後する時期に相当し，その後短期間で廃絶したものと考えられる。

以上，これまでの発掘調査の経過を述べてきたが，今回報告する平成11･12年度分の発掘調査は再び十三小学校の校舎北側で実施したものである。これは最盛期における館主体部の解明及び館の範囲確認調査を目的としたものであった。以下，平成11年度に実施した第90次調査，平成12年度に実施した第120次調査について概要を報告する。

第1表　十三湊遺跡　発掘調査次数

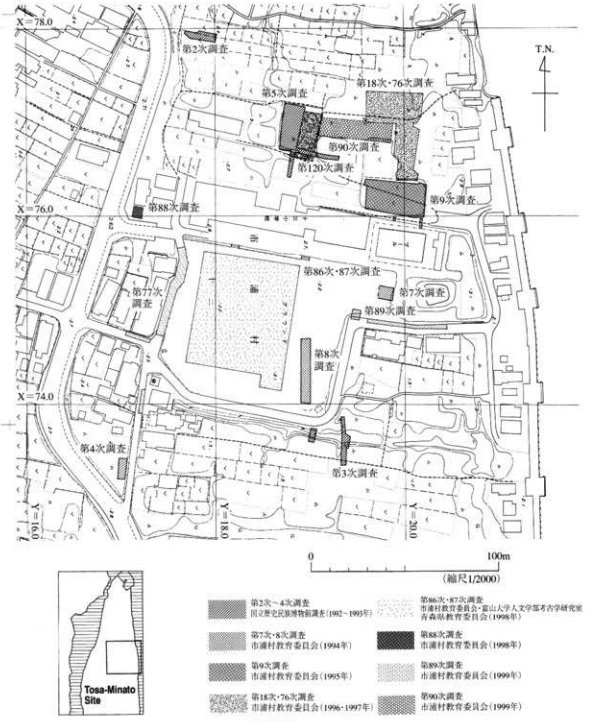
調査年	調査次数	調査月日	調査面積	調査主体	調査原因（既往の名称）	概　要
1973				村越　潔	十三小学校改修工事に伴う調査	領主館地区の調査
1976				櫻井清彦		隠居地点の調査
1987		8/5～8/12, 11/20～11/26		新谷雄蔵	十三小学校線道路改良工事に伴う調査	町屋地区の調査
1988		3/22～3/31, 4/1～4/6				
1991	第1次	10/11～10/17		国立歴史民俗博物館	特定研究「北部日本における文化交流」（91年度調査）	遺跡全体の詳細分布調査
1992	第2次	10/8～10/18	75㎡		特定研究「北部日本における文化交流」（92年度第1地区）	中軸街路の確認調査
	第3次		54㎡		特定研究「北部日本における文化交流」（92年度第2地区）	大土塁と堀の調査
	第4次		58㎡		特定研究「北部日本における文化交流」（92年度第3地区）	町屋地区の調査
1993	第5次	7/23～8/12	325㎡		特定研究「北部日本における文化交流」（93年度第1地区）	領主館の範囲確認調査
	第6次		400㎡		特定研究「北部日本における文化交流」（93年度第2地区）	町屋地区の調査
1994	第7次	8/22～9/9	70㎡	市浦村教育委員会	重要遺跡緊急確認調査（市浦村第1次調査第1地区）	領主館の範囲確認調査
	第8次		175㎡		重要遺跡緊急確認調査（市浦村第1次調査第2地区）	
1995	第9次	8/21～10/28	568.5㎡		重要遺跡緊急確認調査（市浦村第2次調査）	領主館地区の調査
	第10次	8/21～10/13	74㎡	青森県教育委員会	重要遺跡緊急確認調査（青森県第1次調査第1地区）	中軸街路の確認調査
	第11次		900㎡		重要遺跡緊急確認調査（青森県第1次調査第2地区）	家臣団館の範囲確認調査
	第12次	10/23～11/10	232㎡		県道蟹田・鰺ヶ沢線改良事業に係る調査	檀林寺跡周辺の調査
	第13次	10/30～11/20	120㎡	市浦村教育委員会	建物改築に伴う調査	浜の明神の調査
1996	第14次	5/20～6/5	312㎡	青森県教育委員会	十三漁港局部改良事業に係る調査	港湾施設の確認調査
	第15次	6/24～9/26	500㎡		重要遺跡緊急確認調査（青森県第2次調査　土塁北側西地区）	中軸街路の確認調査
	第16次		360㎡		重要遺跡緊急確認調査（青森県第2次調査　土塁北側東地区）	家臣団館地区の調査
	第17次	7/22～9/26	1,200㎡		重要遺跡緊急確認調査（青森県第2次調査　町屋地区）	町屋地区の調査
	第18次	8/21～11/3	860㎡	市浦村教育委員会	重要遺跡緊急確認調査	領主館地区の調査
	第19次	6/24～6/26	51㎡		漁業排水事業（下水道）に伴う調査	町屋地区の調査
	第20次	7/8～7/9	58㎡			
	第21次	1/10～7/15	48㎡			
	第22次	7/16	46㎡			
	第23次	7/21～7/22	49㎡			
	第24次	7/23～7/24	31㎡			
	第25次	7/24～7/26	40㎡			
	第26次	7/31～8/1	35㎡			
	第27次	8/1～8/2	51㎡			
	第28次	8/24～8/27	47㎡			
	第29次	8/2～8/3	12㎡			
	第30次	8/23～8/24	22㎡			
	第31次	8/2	31㎡			
	第32次	7/6～7/8	24㎡			
	第33次	7/16～7/17	18㎡			
	第34次	7/24	30㎡			
	第35次	7/25	18㎡			
	第36次	7/3	27㎡			
	第37次	7/10～7/11	22㎡			
	第38次	7/15				
	第39次	7/18～7/20	21㎡			大土塁と堀の調査
	第40次	7/22～7/23	11㎡			
	第41次	8/28～8/29	17㎡			
	第42次	8/22～9/2	48㎡			土塁北側地区の調査
	第43次	7/27～8/6	56㎡			
	第44次	8/5～8/10	35㎡			
	第45次	8/7～8/10	32㎡			
	第46次	8/20～8/28	43㎡			
	第47次	8/24～9/2	54㎡			
1997	第48次	4/1～4/2	23㎡			土塁北側・前潟に面した地区の調査
	第49次	4/3	6㎡			
	第50次	4/1～4/15	18㎡			
	第51次	4/2～4/14	30㎡			
	第52次	4/22～5/12	14㎡			
	第53次	4/23	5㎡			土塁南側・前潟に面した地区の調査（近世面）
	第54次	4/23～5/27	7㎡			土塁南側・前潟に面した地区の調査（13世紀前半の遺構・遺物）
	第55次	4/19～4/25	15㎡			土塁南側・前潟に面した地区の調査（近世面）
	第56次	4/19	13㎡			
	第57次	4/24	8㎡			
	第58次	4/20～5/14	22㎡			
	第59次		10㎡			

調査年	調査次数	調査月日	調査面積	調査主体	調査原因（現在の名称）	概要
1997	第60次	4/17～5/29	10㎡	市浦村教育委員会	漁業集落排水事業（下水道）に伴う調査	土塁南側・前潟に面した地区の調査
	第61次	8/5	8㎡			
	第62次	9/4	7㎡			
	第63次	8/29～8/31	78㎡			
	第64次	9/24～9/29, 10/10	89㎡			十三湊遺跡南限・範囲確認調査
	第65次	9/3～9/5	22㎡			
	第66次	10/27～10/28	28㎡			
	第67次	10/24	17㎡			
	第68次	10/22～10/23	28㎡			
	第69次	10/21	19㎡			
	第70次	11/20	30㎡			
	第71次	4/14～4/30	250㎡		宅地造成に伴う調査	町屋地区の調査
	第72次	5/19～6/15	200㎡			土塁北側・前潟に面した地区の調査
	第73次	6/19～8/4	200㎡		土砂採取・宅地造成に伴う調査	土塁南側・砂山地区の調査
	第74次	6/30～10/17	750㎡	青森県教育委員会	重要遺跡緊急確認調査	家臣団館地区の調査
	第75次		450㎡			町屋の南限・中軸街路の確認調査
	第76次	8/6～12/17	860㎡	市浦村教育委員会	重要遺跡緊急確認調査	領主館地区の調査（第18次調査の継続調査）
	第77次	8/11～9/5	200㎡	市浦村教育委員会・富山大学考古学研究室	漁業集落排水事業（下水道）に伴う調査	中軸街路の確認調査
	第78次	10/21～11/12	40㎡	市浦村教育委員会	防火水槽設置に伴う調査	土塁北側地区の調査
1998	第79次	5/18～5/20	40㎡		漁業集落排水事業（下水道）に伴う調査	檀林寺跡周辺の調査
	第80次		42㎡			
	第81次	7/27～7/28	90㎡			大土塁と堀の調査
	第82次	8/7～8/13	80㎡			町屋地区の調査
	第83次	7/25～8/6	40㎡			町屋地区の調査（近世墓の調査）
	第84次	9/9～9/15	15㎡			町屋地区の調査（バイパス下の調査）
	第85次	9/22～9/23	6㎡			
	第86次	6/13～10/31	1,360㎡	市浦村教育委員会・富山大学人文学部考古学研究室	重要遺跡緊急確認調査	領主館地区の調査
	第87次		1,720㎡	青森県教育委員会	重要遺跡緊急確認調査	
	第88次	7/8～7/15	12㎡	市浦村教育委員会	観光案内板設置に伴う調査	
1999	第89次	3/1～3/12	90㎡		漁業集落排水事業（下水道）に伴う調査	
	第90次	6/28～9/30	400㎡		重要遺跡緊急確認調査	
	第91次	6/8～10/31	520㎡	青森県教育委員会	重要遺跡緊急確認調査	家臣団館地区の調査
	第92次		110㎡			港湾施設確認の調査
	第93次		22㎡			
	第94次		20㎡			
	第95次	8/30～9/4	40㎡	市浦村教育委員会	宅地造成に伴う調査	湊迎寺周辺の調査
2000	第96次	4/4～6/30	450㎡		漁業集落環境整備事業（公園造成）に伴う調査	土塁北側・前潟に面した地区の調査
	第97次	4/17～5/22	60㎡	青森県教育委員会	県道蟹田・鰺ヶ沢線改良事業に調査に伴う調査	檀林寺跡周辺の調査
	第98次		50㎡			
	第99次		60㎡			
	第100次		50㎡			
	第101次		50㎡			
	第102次		60㎡			
	第103次	4/24～5/2	50㎡			
	第104次		205㎡			
	第105次	5/15～5/17	50㎡			
	第106次	5/15～5/26	80㎡			
	第107次	5/24～5/26	30㎡			
	第108次	5/22～6/2	68㎡			
	第109次	6/5～6/7	28㎡			
	第110次		9㎡			
	第111次	6/1～6/9	77㎡			
	第112次	6/5～6/14	33㎡			
	第113次	6/5～6/12	66㎡			
	第114次	6/12～6/14	24,5㎡			
	第115次	6/15～6/16	10㎡			
	第116次	6/14～6/23	70㎡			
	第117次	6/26～6/27	7㎡			
	第118次	6/19～6/27	31㎡			
	第119次	6/28～6/29	7㎡			
	第120次	9/6～12/4	300㎡	市浦村教育委員会	重要遺跡緊急確認調査	領主館地区の調査
	第121次	9/6～11/30	300㎡	青森県教育委員会	重要遺跡緊急確認調査	港湾施設確認の調査
	第122次	10/27～11/30	400㎡			町屋地区の調査
	第123次	12/18～12/28	4,5㎡	市浦村教育委員会	漁業集落環境整備事業（公園造成）に伴う調査	土塁北側・前潟に面した地区の調査
	第124次		2,25㎡			
	第125次		2,25㎡			
	第126次		2,25㎡			
	第127次		2,25㎡			
	第128次		2,25㎡			
	第129次		2,25㎡			
	第130次		2,25㎡			
	第131次		2,25㎡			
	第132次		8,25㎡			
	第133次		2,25㎡			



※数字は調査次数を表したもの

第2図　十三湊遺跡　調査位置図



第3図　旧十三小学校周辺地区

第Ⅲ章　調査の成果

第90次調査

所 在 地：市浦村大字十三字琴湖岳506

調査期間：平成11年6月28日～平成11年9月30日（約3ヶ月間）

調査面積：400㎡

＜基本層序＞

東壁・南壁の2箇所で土層の堆積状況を確認した。ここでは十三湊遺跡の基本層序に対応させながら，各層序の概要を示す。

第Ⅰ層：現代の生活面及び畑の耕作土。50～70㎝の堆積が見られる。

第Ⅱ層：黒色の腐植土層であり，植物が一定の期間繁茂していたことが分かる。第Ⅱ層上面より近現代～現代の耕作に伴う土坑及び溝を検出したが，おそらく近世面にも対応する土層と考えられる。10～25㎝の堆積が見られる。

第Ⅲ層：黒褐色のやや粘質のあるシルト土層で，10～20㎝の堆積が見られる。第Ⅲ層上面では広範囲に渡って集石遺構を確認した。これら集石遺構はすべて中世遺物を伴うことから，第Ⅲ層が中世遺構面及び中世遺物包含層である。中世遺構には，ほとんど第Ⅲ層の埋土が混入する。

第Ⅳ層：黒色腐植土のやや粘質のあるシルト土層である。約10～20㎝の堆積が見られる。

第Ⅴ層：黄褐色の砂層で地山面に相当する。

＜調査の成果＞

第90次調査は前年度調査区（第18･76次調査）の西側隣に位置する（第3図）。調査地点は遺跡のほぼ中央にあたる旧市浦村立十三小学校が所在する校舎北側の約20m程の場所に位置する。周辺は平坦な地形を呈する砂洲上にあり，標高2.3～2.5mの低地である。調査地点からは東へ50mほどで十三湖岸へ辿り着くことができる。まさに湖水に面した場所と言えよう。地目は畑地となっており，調査区は畑一筆分の東西38m×南北10～11mの範囲を設定した。調査の主目的は十三湊遺跡の中心施設と推定される領主館の解明及び範囲確認調査である。

調査では近世～近現代の遺構面と中世遺構面の2遺構面を検出した。

近世～近現代の上面遺構は図示していないが，近現代の耕作に伴う土坑（ＳＫ01～09）及び溝（ＳＤ01･02），柱穴（ＳＰ01）を検出しただけで，遺構密度が非常に薄い。さらに近世遺構は全く検出できなかった。

また，遺物では近現代の陶磁器や近世の肥前陶磁器が若干量出土しているだけである。

このことは江戸時代初期に作られた慶安元年（1648）の十三絵図によると，調査地区一帯が「芝原」と記されている。近世期にはほとんど土地利用がなされておらず，近現代以降に畑地として利用されるようになったものと考えられる。

中世面では，鎌倉時代から室町時代（13世紀後半～15世紀前半）にかけての遺構・遺物を良好な状態で多数検出している。主な中世遺構では柵塀・溝状遺構の区画遺構，井戸7基，土坑・集石遺構，鍛冶・鋳造関連遺構，その他に掘立柱建物を構成する柱穴を多数検出し，遺構密度が非常に高い状況で

あった。中でも鍛冶・鋳造関連遺構では鍛冶炉（ＳＸ02・04）や鋳造過程で生じる銅滓や鋳つぶされた銭・提子を廃棄した遺構（ＳＫ94）が注目される。遺物では銅が付着した坩堝・鞴の羽口・鉄滓・鍛造剥片・溶解物など鍛冶・鋳造に関する遺物が多数出土している。このように十三湊遺跡における鉄製品及び銅製品の鍛冶・鋳造の生産活動の様子が明らかとなってきた。これら多くの遺構は重複が激しく，今後，共伴遺物や遺構の新旧関係から時期変遷を検討しなくてはならない。ここでは，中世遺構・遺物の概要を述べていきたい。

（a）区画遺構

柵塀や溝状遺構は居住空間を区画し，建物や井戸の配置を規定する区画遺構である。柵塀と溝状遺構の違いについて，柵塀は一般的に溝の底面に柱穴列を伴う「布掘り」溝として上部構造が推定されるが，ここでは明確に柵塀とするものはなく，すべて溝状遺構とすべきものであった。しかし，遺跡が砂洲上に立地する環境から，安易に排水用の溝状遺構とは考えられず，大方は調査時において柵塀の痕跡をうまく検出できなかったものと考えられる。区画遺構には主軸方向の違いから大きく東西方向と南北方向の２者に分かれる。これは方形に区画する屋敷割りの占地を示すものと考えられる。東西方向にはＳＤ02～07・18，南北方向にはＳＤ10・12・14～16がある。特徴的な点は東西方向の区画遺構は規模が大きく，しっかりしたものが多いのに対して，南北方向のそれは規模も小さく，浅いものが多いことである。さらに区画遺構の中で最も古いものはＳＤ06と考えられる。ＳＤ06の主軸は東西方向（Ｎ－70°－Ｗ）で，やや蛇行しながら伸びる。新旧関係はほとんどの遺構に切られているが，遺物が伴わないため，年代は不明である。

（b）井戸

井戸は全部で７基（ＳＥ01・05・06・07・09・10・11）確認されている。井戸側の素材はすべて木組みであり，「縦板組隅柱横桟留め」の構造を持つ。ＳＥ10からは隅柱４点と曲物１点が出土した。また，ＳＥ01・05・06・07・09はそれぞれ曲物１点が出土した。

さらに，特徴的な例を上げると，ＳＥ07では井戸の廃絶時に拳大～人頭大の礫を井戸枠内に多量に廃棄している（写真49～53）。また，礫と共に茶臼が出土している（写真50）。

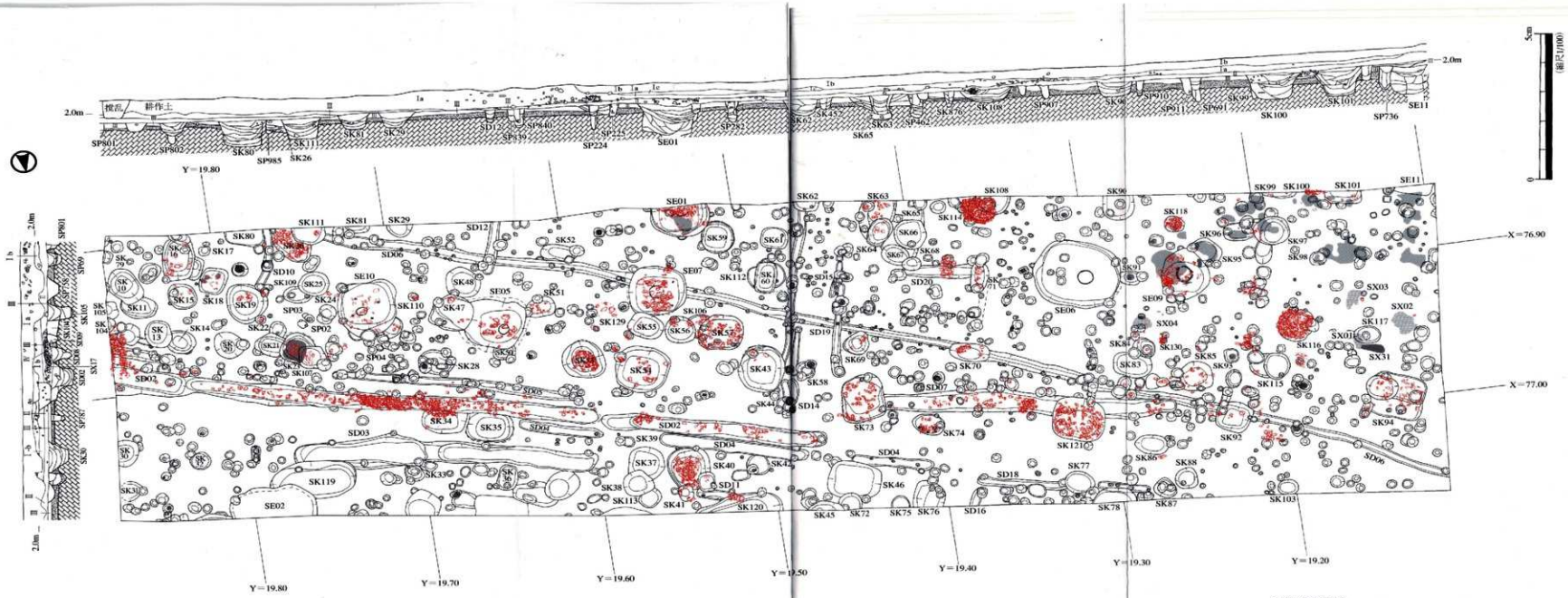
ＳＥ01の覆土には多くの拳大の角礫，或いはヤマトシジミ貝や粘土ブロックを多量に含んでいた。

十三湊遺跡では調査面積に比して，井戸跡が多く検出されるだけでなく，このように井戸廃絶時に礫を投げ込む例が多く見つかっている。これは一種の井戸祭祀と考えられるが，恐らくは掘立柱建物と井戸はセット関係にあり，建物と井戸は一緒に廃棄されたものが多いのであろう。これは建物の屋根石として利用していた礫を井戸に廃棄したものと推察される。

また，ＳＥ09は廃棄時に角礫とともに粘土ブロックが多量に出土している。粘土ブロックは被熱を受けたものが多く，鍛冶炉の炉壁に利用されていた可能性が考えられる（写真41・42）。

（c）土坑・集石遺構

調査区全域にわたって，拳大の角礫をまばらに含んだ土坑や角礫が隙間なく詰まった集石遺構が検出された。両者は廃棄遺構として同様な性格のものと言えるが，集石遺構としたものは礫が密集して



90次調査基本層序

No.	土色	土性	粒径	しまり	保水性	備考
Ⅰa	10YR2/2黒褐	砂質土	細～粗粒	ハード	ややアリ	C(小～大)微量
Ⅰb	10YR2/3黒褐	砂質土	細～粗粒	ハード	ややアリ	C(小～大)微量
Ⅰc	10YR4/2灰黄褐	砂質土	細～粗粒	ややソフト	ややナシ	3cm～巨大の礫含む
Ⅱ	10YR2/1黒	砂質土	細～粗粒	ややソフト	アリ	C(小～大)微量、畑表土層、遺物面
Ⅲa	10YR3/1黒褐	ややシルト	細～粗粒	ハード	アリ	中世面
Ⅲb	10YR2/2黒褐	ややシルト	細～粗粒	ハード	アリ	中世面
Ⅳ	10YR2/3黒	ややシルト	細～粗粒	ハード	アリ	縄文土層
Ⅴ	10YR5/黄褐	砂	細～粗粒	ややソフト	アリ	地山層

第4図　90次調査中世遺構平面図

検出される点を特徴とする。さらに，集石遺構には地中に穴を穿いて土坑になるものと生活面上（第Ⅲ層面上）にまとめて廃棄する二者がある。前者が圧倒的に多く，後者にはＳＸ06･07･17があった。

砂洲上という遺跡の立地からすれば，こうした拳大の角礫は別の場所から搬入しなければ当然存在することはありえない。このように大量の角礫が出土する状況から，やはり第一に屋根石として利用されていた可能性が考えられる。また，こうした集石遺構だけでなく，ＳＤ02溝からも埋土中に大量の角礫を廃棄している状況が見られる（写真12･13）。

ちなみに第Ⅲ層上で検出されたＳＫ108は2.0m×1.8mでやや楕円形を呈し，深さは1.0mを測る。拳大～人頭大の角礫を多量に含み，ほとんどの礫は被熱を受けて赤く変色する。また，礫がチップ状に割れたものやヒビが入ったものが多い。そして，埋土中には炭化物も多く含まれていた。出土遺物には白磁碗１点，瀬戸の平碗１点，折縁小皿５点，豆皿３点，珠洲の壷Ｒ種７点･すり鉢１点が出土している。角礫と同様に遺物には被熱を受けたものが多い点に特徴がある。ＳＫ108は時期的に最も新しく，恐らく十三湊遺跡の終末･衰退期の火事場整理の痕と考えられる（写真14･15）。

（ｄ）鍛冶･鋳造関連遺構

主な鍛冶･鋳造関連遺構では鍛冶炉２基（ＳＸ02･04），鋳造廃棄土坑１基（ＳＫ94），砂溜め遺構（ＳＫ117）がある。その他周辺には炉壁に利用されたと考えられる粘土ブロックや焼土の集中ブロック（ＳＸ20･21･23･24･26･27），或いは溶解物や鍛造剥片が集中するブロック（ＳＸ01･31）など鍛冶･鋳造関連の遺物集中ブロックが多数検出されている。

なお，遺構の新旧関係から，これらの鍛冶･鋳造関連遺構は時期的に新しく，集石遺構と同様に十三湊遺跡の終末･衰退期に相当する遺構群ではないかと推察する。今後の検討課題としたい。以下，主要な遺構を取り上げる。

鍛冶炉

ＳＸ02は調査区の西端で，グリットＸ76.94～76.96，Ｙ19.12～19.14に位置する。1.6m×１mの不整な楕円形を呈する鍛冶炉である。炉の中央部はやや膨らみを持ち，多量の炭化物が集中して黒く焼き締まっている。その周縁には赤褐色を呈する焼土が巡り，同様に焼き締まっている。周辺から羽口が出土している（写真27）。

ＳＸ04は調査区の西端で，グリットＸ76.92～76.94，Ｙ19.26～19.28に位置する。1.1m×0.9mの楕円形を呈する鍛冶炉である。全体に赤褐色を呈する焼土面が広がる。焼土面は硬質で焼き締まっている。炉の中央部はやや膨らみを持つ。周辺から鉄滓や鉄釘が多く出土している（写真26）。

鋳造廃棄土坑

ＳＫ94は調査区の西端で，グリットＸ76.98～77.02，Ｙ19.12～19.16に位置する。検出時には1.6m×1.5mのやや不整な隅丸円形を呈していたが，完掘してみると底辺で楕円形及び円形の土坑が切り合った状態で検出された。埋土中には拳大の角礫や炭化物が多量に出土している。また，銅製品の鋳造生産の痕跡を示す多量の遺物がまとまって出土している。土製品の坩堝15点･鞴の羽口３点，銅製品では銭３点，提子２点，銅滓，粘土ブロック，溶解物などが出土している。坩堝の内面には銅が付

着したものや，銭・提子は鋳つぶされた状態で出土している（写真87～90）。銭・提子は別の製品に加工するために，銅の地金として再利用されたと考えられる。また，他にも石製品の砥石１点，鉄製品の鉄釘16点・用途不明１点，鉄滓，土製品の土錘１点，陶磁器では白磁碗３点，中世土師器５点，珠洲すり鉢３点，瓷器系陶器４点が出土している（写真77）。なお，中世土師器は細片であるが，中世後期の京都系土師器（かわらけ）と推される。

砂溜め遺構

ＳＫ117は調査区の西端で，グリットＸ76.94～76.96，Ｙ19.14～19.16に位置する。平面形は楕円形を呈し，規模は60cm×75cmで深さ20cmを測る。埋土は３層に分かれるが，第１層の上層からは灰白色の砂層が10cmほど堆積する。これは周囲の中世遺構の埋土とは明らかに異なるもので，浜地から持ち込んだ砂と考えられる。さらに，周辺には鍛造剥片や溶解物を集中するブロック（ＳＸ31）やＳＸ02鍛冶炉跡などが近接することから，鍛冶・鋳造に関連する遺構の可能性が高い。可能性としては鋳造生産の過程で砂による型押しのために用いられた砂溜め遺構とも考えられるが，今後の検討課題としたい（写真28・29）。

＜出土遺物＞

出土遺物では主に陶磁器のほか鉄製品・土製品・石製品・銅製品・木製品が多数出土している。特に前述したように鍛冶・鋳造関連の遺物が多数出土している点が注目される。しかし，今だ十分に遺物整理がなされていないため，ここでは遺構との関係を絡めて主要な遺物の概要を述べる。

陶磁器には青磁・白磁・青白磁の中国陶磁器，象嵌青磁の朝鮮製陶磁器，瀬戸・珠洲・瓷器系陶器・瓦質土器・中世土師器の国産（施釉）陶器・土器が出土している。

出土陶磁器から見た年代は，その上限は13世紀後半まで遡ると思われるが，この時期に相当する明らかな遺構は検出されていない。中心時期は14世紀～15世紀前半代に求められる。

また，十三湊の終末に関してはＳＫ94のように15世紀中頃に相当する京都系土師器（かわらけ）が混入することも明らかとなってきている。このように遺物の面では15世紀中頃に相当する京都系土師器の搬入が十三湊遺跡の最終時期を決定する１つの指標になるのではないかと推察する。

また，中でも本調査区から朝鮮製陶磁器の象嵌青磁碗や青白磁合子（写真62），中国製の茶壷・天目碗・茶臼など喫茶道具のセット，及び瀬戸の水滴・合子など奢侈品や特殊品が多く出土している。これは本調査区が身分・階層性の高い人々の居住域であることを示しているものと思われる。

以下，本調査区から出土した特殊な遺物を第５図において示しておきたい。

１はＳＰ04から出土した完形品に近い青磁碗である。分類では龍泉窯系青磁Ｄ Ｉ類にあたる。ＳＰ04は近現代の遺構に切られていたため，青磁碗の口縁部の一端が破損したものと推されるが，本来は柱穴内に完形品を埋納したものと考えられる（写真８・63）。

２は朝鮮製陶磁器の象嵌青磁碗である。内外面には白象嵌が施されている（写真62）。

３は中国製の葉茶壷の口縁部破片である。鉄釉が施されている。ＳＥ05井戸から出土した（写真62）。

４は瀬戸の水滴である。半分に割れていたものが漆によって接合されていた（写真67）。

5・6は龍泉窯系青磁の香炉で口縁部と底部片であるが，同一個体の可能性が高い。香炉の優品である。ＳＤ02から出土した（写真57）。

7はＳＰ02から出土した瀬戸の天目碗である。多数の破片がＳＰ02の柱穴内から出土しており，接合後に１個体であることが分かった。恐らく本来は柱穴内に完形品を埋納したものと推される（写真9・64）。

8は瀬戸の合子である。灰釉を施す。ＳＫ27から出土している（写真67）。

9は石製品の茶臼である。茶臼はＳＥ07から多くの角礫と共に出土した（写真50）。

10～12は銅製品である。10は小碗，11は香炉である。それぞれ包含層中から出土した。12は提子である。片口部と体部破片から全体の復元実測した。ＳＫ94の鋳造廃棄土坑から出土している（写真86・89～91）。

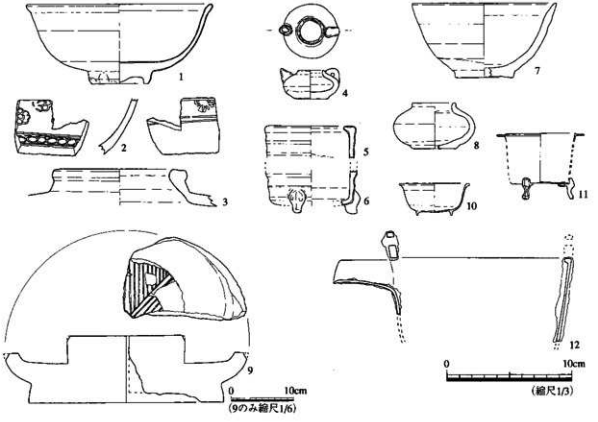
＜まとめ＞

第90次調査をまとめると，以下のとおりになる。

近現代の遺構には畑の耕作に伴う溝及び土坑が検出されているが，近世期の遺構は全く検出されていない。近世初頭に描かれた十三絵図では，本調査区が「芝原」と示されるように近世期にはほとんど土地利用がなされていないことが発掘調査からも明らかとなった。

そのため，中世遺構面では鎌倉時代後期から室町時代（13世紀後半～15世紀前半）にかけての遺構・遺物を良好な状態で多数検出している。主な中世遺構では柵塀・溝状遺構の区画遺構，井戸７基，土坑・集石遺構，鍛冶・鋳造関連遺構，その他に柱穴を多数検出した。こうした遺構から，屋敷割りされた空間には掘立柱建物が井戸を備えて建ち並ぶ景観を復原することができる。また，中でも鍛冶・鋳造関連遺構の検出は十三湊遺跡における鉄製品及び銅製品の鍛冶・鋳造生産活動の様子を具体的に示すものであろう。しかし，鍛冶・鋳造関連遺構は他の遺構との新旧関係から時期的にも新しいものとなっている。今後は共伴遺物や遺構の新旧関係を精査して，遺構の時期変遷を検討しなくてはならないであろう。

出土遺物では朝鮮陶磁器の象嵌青磁，龍泉窯系青磁の香炉，青白磁合子や中国製の葉茶壷・天目碗・茶臼など喫茶道具のセットが出土している。本調査区ではこうした贅的に高い遺物が多く出土していることから，階層性の高い人々の居住域であるという場の機能や性格を推定することができる。



第5図　第90次調査　出土遺物

第2表　90次調査　出土遺物

番号	種類	器種	遺構	層位	レベル	備考	整理No.
1	青磁	碗	SP04		1.450	龍泉窯系D類	99 I 1454
2	朝鮮製青磁	碗		I・II層	1.666	象嵌青磁	99 I 562, 568
3	中国	壺	SE05		0.869	褐釉壺	99 I 1996, 2515
4	瀬戸	水滴		I・II層	1.738		99 I 539
5	青磁	香炉	SD02		1.507	同一個体か?	99 I 2104
6	青磁	香炉			1.400		99 I 2105
7	瀬戸	灯明皿	SP02		1.434	古瀬戸後I期	99 I 1398ほか
8	瀬戸	合子	SK27		1.253		99 I 1693, 1772
9	石製品	茶臼	SE07		1.207		99 I 1837
10	銅製品	小柄		III層	1.640		99 I 1383
11	銅製品	香炉		I・II層	1.694		99 I 761・a
12	銅製品	櫛子	SK94		1.786		99 I 1320

1．調査風景

2．調査風景

3．調査区南壁断面層位（北から）

4．調査参加者

5．90次調査　完掘全景

6．90次調査　航空写真

7．調査区周辺の地割（旧市浦村立十三小学校～神明宮）　東から

8．ＳＰ04　青磁碗出土（南西から）

9．ＳＰ02・03　瀬戸天目碗出土（南から）

10．ＳＰ344　刀子出土（東から）

11．ＳＰ123　珠洲すり鉢出土（南から）

12．ＳＤ02　集石検出（西から）

13．ＳＤ02　２回目検出（東から）

14. ＳＫ108　集石遺構の検出（北から）

15. ＳＫ108　集石遺構の半裁（北から）

16. ＳＫ116　集石遺構の検出（東から）

17. ＳＫ116　集石遺構の半裁（東から）

18. ＳＫ123～125・116　集石遺構の検出（東から）

19. ＳＫ118　集石遺構の検出（北から）

20. ＳＫ127　集石遺構の検出（西から）

21. ＳＫ127・ＳＤ02　断面層位（西から）

22. ＳＫ94　鍛冶廃棄土坑の検出（東から）

23. ＳＫ94　鍛冶廃棄土坑の検出（２回目・東から）

24. ＳＫ94　鍛冶廃棄土坑の完掘（東から）

25. ＳＫ94　鋳つぶされた銅製品・銅滓出土

26. ＳＸ04　鍛冶炉（東から）

27. ＳＸ02　鍛冶炉（東から）

28. ＳＫ117・ＳＸ31　砂留め遺構と溶解物・鍛造剥片のかたまり（東から）

29. ＳＫ117・ＳＸ31　断面層位（東から）

30. ＳＫ26　集石遺構

31. ＳＫ121　土坑検出（東から）

32. ＳＫ16　土坑　断面層位（西から）

33. ＳＫ16土坑　完掘（西から）

34. ＳＫ39　土坑（東から）

35. ＳＫ56・57　検出（南から）

36. ＳＫ60　土坑　断面層位（東から）

37. ＳＫ53　土坑検出（南から）